

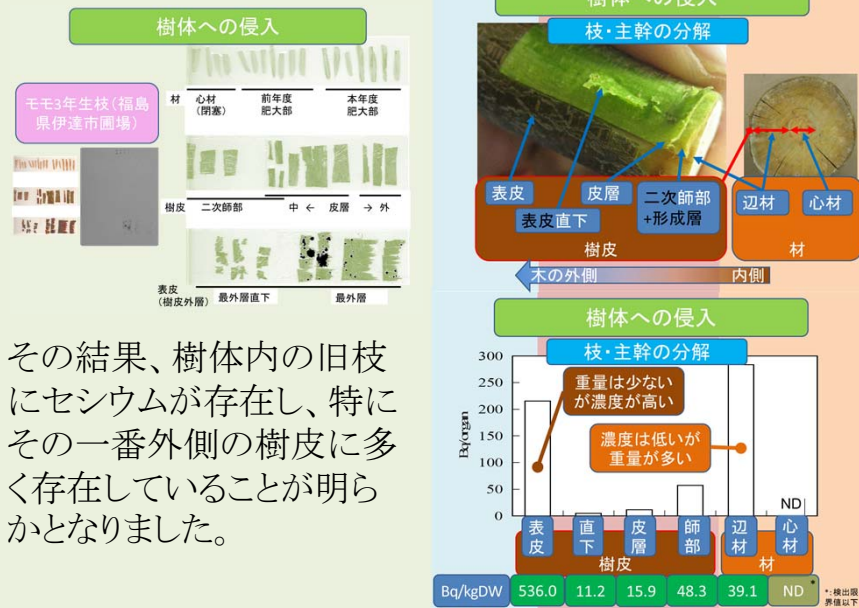
福島県における果樹の放射性セシウムの動態

高田大輔 (東京大院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構)



原発事故以来福島県福島市や伊達市、東京都内にある附属生態調和農学機構(旧附属農場)で果樹樹体内の放射性セシウムの動態に関する試験を行っています。福島県は農業王国ですが、その中でも果樹栽培が非常に盛んなため、実態を早急に解決する必要があったのですが、そもそも果樹に関する放射性セシウムの動態に関してはほとんどわかっていないのが事故時の現状でした。

そこで、樹体内のどの部位に放射性セシウムが存在するかを調査しました。



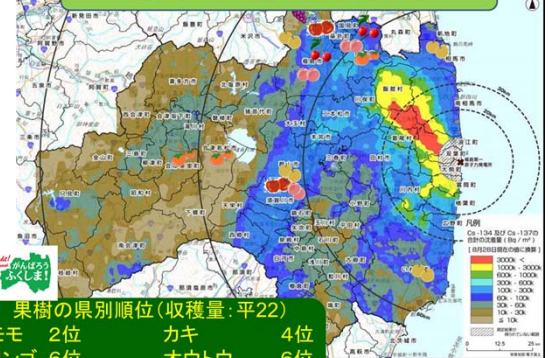
その結果、樹体内の旧枝にセシウムが存在し、特にその一番外側の樹皮に多く存在していることが明らかとなりました。

次に、樹体内にすでに入ったセシウムが次の年にどの部位に移動するかを調査しました。なお、非汚染土に植替えし、土壌からの移行を無視できる条件の試験です。



が、土壌からの移行係数の0.002などと比べて非常に高い寄与率です。

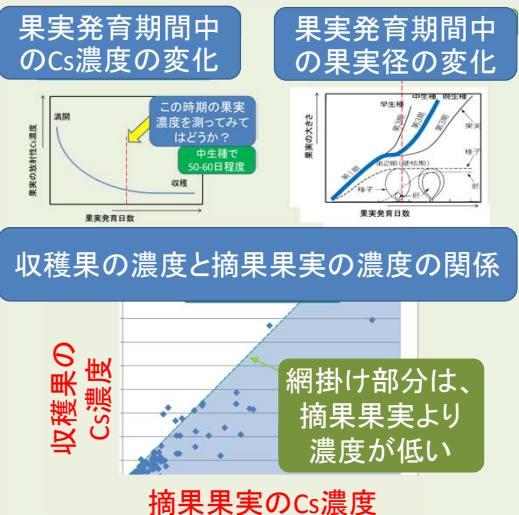
福島県の主要果樹栽培



ちなみに土壌から果実への移行量はわずかででした。



他にも、果実を摘果作業に採取し、その濃度を基に、収穫果の濃度を推察を試みています。



このように、事故後数年では、土壌から果実への移行は直接フォールアウトしたものよりわずかであること、摘果果実の濃度測定を基に、収穫果の安心性を検討することができるのではないかと調査しています。